



Hokkaido University of Education
北海道教育大学

平成21年度
活動報告書

男女

共同参画推進会議作業部会



平成22年11月

はじめに

本学の男女共同参画推進会議は平成 19 年 3 月に発足以来、毎年、本学の男女共同参画の現状と課題についての報告書を作成してきました。本報告書は平成 21 年度（2009 年度）の活動報告書であり、ワーキンググループの段階を含めると第 4 冊目の刊行となります。

この間、平成 18 年度から平成 21 年度まで、本学の再編時期と重なり、例えば、教員人事等に関しては経過的な措置が取られ、男女共同参画の進捗状況を正確に把握するのが難しい状況にもありました。

この再編計画も本年度で終了し、これからこそが、本学の男女共同参画の推進の真価が問われることとなります。とはいえ、4 年間の継続的なデータの積み重ねは一定の本学の特色を語る貴重なデータとなっています。

教職員の皆さまには、是非、本報告書を今後の大学作りの参考資料として活用して頂きたいと思えます。また、私どもも、教職員のみならず広く学生等にも積極的に広報をしてゆきたいと思っております。

これまでの本学の進捗状況を概観しましょう。

①女性教員の比率（全学）は平成 20 年度の 15.1% に対し 16.8% と僅かながら上昇しました。女性教員の応募率、採用率も過去最高で 3 割を超えました。国大協提言（2010 年までに女性教員比率 20%）にはまだまだ及びませんでした。女性教員の割合の増加に対する取り組みが地道ながら進展しているといえます。

女性職員の割合は急増しており、とりわけ平成 22 年度の正規職員の新規採用は男性職員を上回る勢いです。育児休業取得率も過去最高でした。次世代育成支援の制度が利用しやすい状況にあると思われれます。但し、女性職員の半数以上が非常勤職員であり、しかもその比率は高くなってきています。

また、本学の管理職（p. 2 注釈参照）には女性がいません。意思決定の場に女性の声が反映されないのは問題です。

②カリキュラム

平成 23 年度から、1 年生必修の全学カリキュラム「倫理・人権」が開設されることとなりました。開設のきっかけは、本学の学生等が引き起こした事件を引き金に「有識者会議」提言によるものですが、男女共同参画推進会議でも以前からジェンダーや人権の全学カリキュラム化を提言してきたところ。本会議のメンバーも開設準備に関わり、ジェンダーと差別、ハラスメント、DV、男女共同参画社会のあり方等を内容に取りこむべく奮闘しました。また、旭川校で新設された「性教育学」の全学への拡充も検討されなければなりません。

③就職進路状況、④ハラスメント防止対策への取り組みについては、報告書で詳細をご覧ください。

北海道教育大学男女共同参画推進会議

平成 22 年 11 月

目 次

1. 教職員の現状：平成 21 年度について	・・・ 1
1) 大学教員の男女比率	・・・ 1
2) 教員採用における男女比率	・・・ 2
3) 管理職及び各種委員会における委員長・副委員長の男女比率	・・・ 2
4) 事務系職員採用における男女比率	・・・ 4
2. カリキュラムの現状	・・・ 5
1) シラバス調査による平成 21 (2009) 年度ジェンダー関連科目の開設状況	・・・ 5
2) 次年度以降の課題	・・・ 10
3. 育児・介護と仕事の両立について	・・・ 12
4. 卒業後の進路と就職内容	・・・ 14
1) 学部学生	・・・ 14
2) 大学院生	・・・ 17
5. 広報・啓発活動	・・・ 20
6. 北海道教育大学のハラスメント防止と問題への対応	・・・ 22
1) 本学全構成員（大学教職員、附属学校園教職員、学生、交換 留学生）に対するハラスメント防止に関する研修会の実施	・・・ 23
2) 教育実習・介護等体験実習時におけるハラスメント防止のための指導・ 啓蒙の強化	・・・ 24
3) 各キャンパスにおけるハラスメントの実態	・・・ 25
4) 人権相談体制の P R の強化徹底について	・・・ 26
5) 「性教育学」の開講	・・・ 27
6) アルコール・ハラスメント, D V (デート D V) 防止について	・・・ 27
北海道教育大学男女共同参画推進会議人員構成	・・・ 41

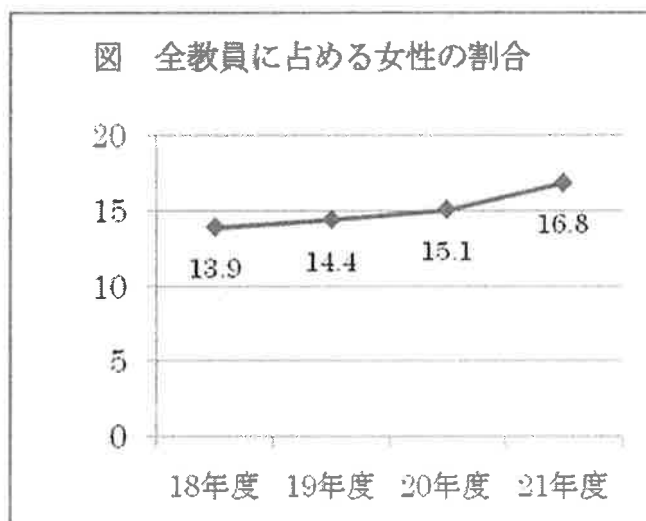
1 教職員の現状：平成 21 年度について

1) 大学教員の男女比率

本学は平成 18 年度から始まった再編が平成 21 年度で完了し、これにかかわる教員の異動も終了した。前回報告書（「北海道教育大学 男女共同参画推進会議作業部会 平成 20 年度報告書」平成 21 年 10 月。以下「前回報告書」と記す）では全学の教員に占める女性教員の比率は 15.1%であったが、表 1-1 に示すとおり、平成 22 年 2 月には 16.8%へと上昇しており、本学の男女共同参画が地道ながら進展していることを表している。特に新課程を擁する函館、岩見沢キャンパスでの伸びが大きく、全体に貢献している。教員養成課程では、旭川キャンパスで昨年よりも比率が下降したが、教員養成全体ではかろうじて昨年を上回った。

表 1-1 北海道教育大学 大学教員の男女比 (平成 22(2010)年 2 月現在)

	全体	札幌	旭川	釧路	教員養成 小計	函館	岩見沢	新課程小計
男性	316	87	70	50	207	64	45	109
女性	64	21	8	10	39	12	13	25
女性比率	16.8	19.4	10.3	16.7	15.9	15.8	22.4	18.7



平成 18 年度からの本学の女性教員比率を見ると、図に示すように着実に上昇している。しかしながら、国大協提言の「2010 年に 20%」という数値目標にはまだまだ遠く及ばない。今後も大学としてできる限りの努力をしていくことが望まれる。

次に、附属学校教員数の男女比率を表1-2に示す。

表1-2 北海道教育大学 附属学校教員の男女比 (平成22(2010)年2月現在)

附属学校教員	全体	札幌	旭川	釧路	函館
男性	133	34	31	27	41
女性	50	8	8	8	26
女性比率	27.3	19.0	20.5	22.9	38.8

附属学校教員は大学教員よりは女性比率が高いが、公立の小中学校と比較するとその割合は決して高いとは言えない。毎年、何名かの異動があるため、今後の推移を見守りたい。

2) 教員採用における男女比率

表1-3に、平成21年度の教員採用人事における男女別状況を示す(次頁)。

採用者全体における女性比率は、平成16,17年度の15.6%、平成18,19年度の19.4%、平成20年度の11.8%(いずれも前回報告書)から一気に上昇し、35.7%であった。応募者中の女性比率も30%を超えており、ここ数年で最も女性の応募が多かった年度と言える。応募者の女性比率と採用者の女性比率では、採用者の方が若干高くなっている。前年度までと比較し、やや積極的に女性を採用できたと言えるだろう。

女性の応募が一件もなかったのは、ひとつの採用選考(キ)のみであった。前年度(平成20年度)の採用選考では文科系、理科系を問わず女性の応募自体が少なく、それが採用比率の減少に繋がっていたが、今回(平成21年度)では女性の応募が男性を上回った採用選考も2ケースあり(エ,セ)、そうした傾向が採用比率の上昇に繋がったと考えられる。

3) 管理職及び各種委員会における委員長・副委員長の男女比率

表1-4に、平成21年度における全学および各キャンパスでの各種委員会の数と、その中で女性が委員長・副委員長を務める数を列挙した(次頁)。各種委員会および委員長の性別は、各キャンパスの各種委員会委員等一覧に記載されたものから算出した。

もともとの女性教員比率に対し、大学運営の中で管理的な責務を負う委員長、副委員長を担った女性教員は、前年度に引き続き札幌キャンパスに多いが、その比率は前年(平成20年)度にくらべ減少した。全体での女性比率から見て委員長・副委員長が少ないのは釧路キャンパスと岩見沢キャンパスであるが、こうした運営上の責任者は教授が果たすことが多く、女性教員の職務階級とも関連する。若手女性教員、あるいは採用後間もない女性教員が多い場合、委員長・副委員長の比率は下がると考えられるため、今後の推移を見守る必要があるだろう。札幌キャンパスは大学経営上の方針から、原則としてここ数年、新規採用が行われていないので、男性だけでなく女性も若手教員が少ない。そのことが女性の委員長・副委員長が多い事と関連していると思われる。また、本学の学長を含む管理職数は30名だが、このうち女性は一人もいない。女性管理職

¹ ここでの「管理職」とは、学長、副学長、理事、副理事、教職大学院長、保健管理センター長、附属学校長、各センター長、図書館長を指す。なお、理事兼任の各センター長および図書館長が5名ある。

が活躍できるような体制を整えることが望まれる。

表1-3 平成21年度教員採用調査

	応募者数			採用者		備考
	総数	男性	女性	性別	採用年度	
ア	18	13	5	男	平成21年度	
イ	16	12	4	男	平成21年度	
ウ	25	19	6	女	平成21年度	
エ	5	1	4	女	平成21年度	
オ	11	8	3	女	平成21年度	
カ	10	7	3	男	平成21年度	
キ	4	4	0	男	平成21年度	
ク	5	3	2	男	平成21年度	
ケ	7	5	2	男	平成21年度	
コ	12	9	3	男	平成21年度	
サ	8	7	1	男	平成21年度	
シ	11	7	4	女	平成21年度	
ス	12	10	2	男	平成21年度	
セ	10	2	8	女	平成21年度	
	採用者全体に於ける男女比			男性9名 女性5名	64.3% 35.7%	
	応募者全体に於ける男女比 (全応募者154名中)			男性107名 女性47名	69.5% 30.5%	
	女性の応募者がなかった採用人事			14ケース中、1ケース(7.1%)		

表1-4 北海道教育大学 各種委員会委員長の男女別人数(平成21年度)

	全体	札幌	旭川	釧路	教員養成 小計	函館	岩見沢	新課程 小計
委員会数	87	17	23	17	57	17	13	30
女性委員長数	10	4	2	1	7	2	1	3
女性副委員長数	3	0	1	0	1	1	1	2
女性比率	14.9	23.5	13.0	5.9	14.0	17.6	15.4	16.7
教員全体の女性比率	16.8	19.4	10.3	16.7	15.9	15.8	22.4	18.7
前(H20)年度女性比率	12.6	33.3	13.0	5.0	16.4	4.5	8.3	5.9
前(H20)年度教員全体の女性比率	15.0	20.3	11.1	12.1	15.3	11.5	18.3	14.4

4) 事務系職員採用における男女比率

表1-5に、平成21年度の事務系職員採用人事における男女別状況を示す。

事務系職員の採用においては、平成13年度以降、男女比は拮抗している。平成21年度は男性8名、女性3名採用と、やや男性が多いが、全体として見て特に大きな不均衡はない。平成13年度以降の採用者数全体の男女比についても、57.8%と42.2%であり、偏りがあるとは言えない。

ただし、今後何年かにわたって、毎年男性の方がかなり多く採用されるようなことになれば、これまで均衡を保っていた事務職員の男女比率が大きく変化してゆく。次年度以降の採用人事の推移を見守りたい。

表1-5 男女別事務系採用者数

	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	全体	(%)
男性	7	7	6	5	4	3	4	4	8	48	(57.8)
女性	4	5	5	4	5	4	2	3	3	35	(42.2)
計	11	12	11	9	9	7	6	7	11	83	(100.0)

ただし、以上の数値は正職員に関するものである。事務系職員には正職員の他、非常勤職員および派遣職員があり、表1-6に示すように、男性では正職員が圧倒的に多いのに対し、女性は非常勤職員と派遣職員の占める割合が高い。前年度（平成20年度）は、女性全体の37.3%が非常勤職員であり、23.9%が派遣職員であった。今年度は派遣職員が減少したが、その分、非常勤職員が増加しており、正職員は女性職員全体で1%増加したのみに留まっている。

正職員でない職員の待遇等については今後も継続して調べていく必要がある。

表1-6 男女別事務系採用者数（平成22年3月1日現在）

	正職員	非常勤職員	派遣職員	全体	全体の男女比率
男性	162	23	2	187	55.5
(男性全体に対する%)	86.6	12.3	1.1		
女性	56	87	7	150	44.5
(女性全体に対する%)	37.3	58.0	4.7		

2. カリキュラムの現状

1) シラバス調査による平成 21 (2009) 年度ジェンダー関連科目の開設状況

表Ⅱ-1には、平成 21 年度の本学におけるジェンダー関連科目開設状況を示した。

シラバスの「授業概要」欄あるいは「授業計画」欄に、ジェンダー関連記述がみられた科目を表記したものである。「ジェンダー関連記述」とは、「ジェンダー」「男女共同参画」の他に、「女性」「男性」「性別役割」「セクシュアリティ」「性教育」「共学」「共習」、その他これらに類する記述とし、これらが記述された科目を担当する講師が、他の担当科目シラバスに「家族」「子育て」「ひとり親」「少子化」等を記述している場合も、その科目をジェンダー関連科目とした。また表中()内の科目は、ジェンダー関連科目とは判断できないものの、それに通じる可能性のある科目としてあげたものである。また「内容」欄に「回数」を記しているものがあるが、講義の一部に限定してジェンダー関連内容を扱っていると思われる場合は、わかる限りでその講義回数を示した。

平成 20 年度欄を設け、21 年度と対比させているが、20 年度にはあるが 21 年度にはない科目については、対応する 21 年度科目欄に斜体文字でコメントを付けた。科目削除の理由の多くは担当講師の交替によるものである。

以下に 21 年度の特徴をあげる。

ジェンダー関連科目の増減を各校ごとの開設科目数の合計によって単純に比較すると、20 年度 55 科目、21 年度 57 科目となる。隔年開講のため 21 年度は閉講となる科目が 4 科目あるが、これを加えるとすれば、あくまでもシラバス上ではあるがジェンダー関連科目数は増加したといえそうである。科目区分ごとの内訳は、教養科目が 20 年度 10 科目、21 年度 13 科目、専門科目が 20 年度 38 科目、21 年度 39 科目、教職科目が 20 年度 7 科目、21 年度 5 科目、隔年開講科目が教養科目で 1 科目、専門科目で 2 科目、教職科目で 1 科目ある。教養科目と専門科目でジェンダー関連科目が増加しているということになる。

教養科目では、21 年度から旭川校で「性教育学」が開設された。性教育に関わる科目は、教員養成 3 キャンパスの中では唯一の開設であり、釧路と札幌の 2 キャンパスでは引き続き開設への道を探っていくことになる。また 21 年度からは、双方向遠隔授業による全学連携科目「キャリア開発の基礎」が就職支援の一環として開設され、女性就労に関わる内容が一コマ置かれている。

一方、20 年度開設科目の岩見沢校「現代と芸術」、同じく釧路校「現代社会と教育」、函館校「北海道スタディズ」は、担当講師は替わらないものの、21 年度シラバスから関連記述が削除されている。札幌校「子育てと暮らしの教育」は、主担当講師の交替により今後の開設は未定である。前者 3 科目は、ジェンダーは主要なテーマではなく、比較的テーマ設定の自由度が高いと思われる教養科目において、担当講師が常にジェンダーを意識することの難しさを思わせもする。ジェンダーを主要テーマとする教養科目を位置づけること

は、この点からも求められると考える。

専門科目では、担当講師の交替により6科目が減り、10科目が増となった。増えた科目は社会、芸術、体育、生活、教育等の多岐分野にわたっている。一方で、講師は替わらないが関連記述が削除されたものが2科目ある。いずれも語学関係の科目であり、講読テキストのテーマの影響と思われる。

教職科目については、開設科目が家庭科に限定される傾向にある。教職科目欄に（ ）付き科目がいくつかあるが、ジェンダー関連科目にもなり得る科目は他にも多くあるはずである。教育実践により深くかかわる科目群であるだけに、担当講師の取り組みが強く期待される。

表Ⅱ-1 平成21(2009)年度ジェンダー関連科目の設定状況

分校	区分	平成20年度ジェンダー関連科目	平成21年度ジェンダー関連科目		
		科目名	科目名	学年	内容
旭川	教養		性教育学	1-2	
			恋愛と結婚の科学	1-2	
			現代と科学	2	現代の家族と家庭生活/1回
			キャリア開発の基礎(複)	2	雇用就労環境と各種施策(男女共同参画社会等)/1回
	専門	家族関係論	家族関係論	1-2	
		日本史概論	日本史概論	1-2	近世(江戸時代)の女性の歴史
		法律学概論	法律学概論	1-2	男女の平等/1回
			社会学概論	1-2	労働とジェンダー 根強い差別の構造/1回
			社会哲学概論	1-2	女性差別撤廃条約, 性別役割分業, 保護と平等/2回
		育児学Ⅱ	→講師交替		
		日本史特講Ⅱ	→講師交替		
		体育社会学	→講師交替		
		外国語(英語4E)	→講師交替		
		英米文学特講Ⅱ	→関連記述なし		
	教職	小学校家庭科教育法	小学校家庭科教育法	2	
			高等学校家庭科教育法Ⅰ	4	
			総合演習	2	女性就労他/3回
		(教育相談の理論と方法E, F, J)	(教育相談の理論と方法E, F, J)	2	(「性」をめぐる行動/1回)

		(教育相談の理論と方法 B, C, D)	(教育相談の理論と方法 B, C, D)	2	(性に関する問題の理解と対応)	
岩見 沢	教養	現代ジェンダー論 (複)	現代ジェンダー論 (複)	1		
			キャリア開発の基礎 (複)	2	雇用就労環境と各種施策 (男女共同参画社会等/1回)	
		現代の芸術	→関連記述なし			
	専門	スポーツ社会学概論	スポーツ社会学概論	1	スポーツとジェンダー/1回	
		美術学概論	美術学概論	1-2	ジェンダーの問題と関わるアート, セクシュアルマイノリティと関わるアート/4回	
		美術学Ⅰ	美術学Ⅰ	3-4	ジェンダーあるいは様々なマイノリティの差別, 人権の問題, フェミニズム, セクシュアリティと関わるアート/4回	
			美術学Ⅱ	3-4	セクシュアリティと表現のポストモダンの多様性	
			美術学Ⅲ	3-4	ジェンダーあるいは様々なマイノリティの差別, 人権の問題, フェミニズム, セクシュアリティと関わるアート/4回	
		体力学	体力学	3	男女差や女性特有の体力要素	
			学校保健*	1	小・中・高における性・エイズ教育/1回	
			臨床スポーツ医学	3	女性とスポーツ/1回	
		女性とスポーツ (未開設)	→科目削除			
		教職	保健体育科教育法Ⅲ-2	→関連記述なし		
			(教育の基礎と理念 a)	(教育の基礎と理念 b)		(夫婦関係と子育て/1回)
釧路	教養		キャリア開発の基礎 (複)	2	雇用就労環境と各種施策 (男女共同参画社会等/1回)	
		現代社会と教育	→関連記述なし			
	専門	社会学概論*	社会学概論*		ジェンダーとセクシャリティ/1回	
			社会と思想		教育, 女性, 子どもの問題/1回	
		教育心理総合研究*	教育心理総合研究*	3-4	ジェンダーと暴力・平和/1回	

		家庭科の教育*		共生社会, 男女共同参画社会/1回	
		生活の科学 I	生活の科学 I	家族の変化と少子高齢時代	
	教職	(教育相談の理論と方法)	(教育相談の理論と方法)	1 (子育てをめぐる変化)	
		初等家庭科教育法 B	→関連記述なし		
札幌	教養	現代ジェンダー論 (複)	現代ジェンダー論 (複)	1-2	
		人権 (複)	人権 (複)	1-2	女性の人権/2回, キャンパスの中の人権/1回, 家庭の中の暴力/2回
		グローバル社会論 (複)	グローバル社会論 (複)	1-2	グローバリゼーションが男性と女性に与える影響の差異と問題点/8回
			キャリア開発の基礎 (複)	2	雇用就労環境と各種施策 (男女共同参画社会等/1回)
		子育てと暮らしの教育	→講師交替・21年度以降開講未定		
	専門	社会学概論	社会学概論	1	現代社会の変容と個人—階級とジェンダーの視点から—
		国際理解教育論	国際理解教育論	1	日本の中のマイノリティ
		国際人権・ジェンダー論*	国際人権・ジェンダー論*	3	
		法律学概論 I	法律学概論 I	2	働く自由・女であることの自由, 他
		生活経営論*	生活経営論*	1	家族の変化と少子高齢時代
		生涯学習に関する研究	生涯学習に関する研究	2	男女共同参画センターなどの見学研修
		子どもと家族・生活文化	子どもと家族・生活文化	2	家族と家庭生活, 食とジェンダー—
			社会科教育概論	1-4	中世の女性と子ども
			初等生活 B*	2-3	男と女, 性の問題, 家庭内労働, お手伝い
		比較社会論	→隔年開講, 21年度閉		
		文化人類学	→シラバスなし		
		総合学習概論	→講師交替		
		英米文学講読 II B	→関連記述なし		
		(子どもの生活と学校教育)	(子どもの生活と学校教育)	2	(家庭における子育ての状況)

		(生理学Ⅰ)	(生理学Ⅰ)	1	(性の決定と分化, 男性・女性の生殖生理, 妊娠と分娩)	
		(臨床医学Ⅱ*)	(臨床医学Ⅱ*)	3	(女性の二次性徴, 妊娠のメカニズム, 感染症)	
教職	小学校家庭科教育法 A, B, C	小学校家庭科教育法 A, B, C	小学校家庭科教育法 A, B, C	2-3	男女平等, 男女共同参画社会	
	教育の基礎と理念 A	教育の基礎と理念 A, C	教育の基礎と理念 A, C	1	教育における性差別 - 「男女別学主義」とはなにか/2 回	
	教育の基礎と理念 C*	→上記 A の講師に交替				
	中学校家庭科教育法Ⅱ	→隔年開講, 21年度閉		1		
	(教職論(複))	(教職論(複))			(性感染症, エイズ/1 回)	
函館	教養	日本国憲法(人間開発・国際協力対象)*	日本国憲法(人間発達・国際対象)*	1	女性の人権/1 回	
			キャリア開発の基礎(複)	2	雇用就労環境と各種施策(男女共同参画社会等)/1 回	
		子どもの人権	→隔年開講, 21年度閉			
		北海道スタディズ(複)*	→関連記述なし			
			(研究基礎セミナー(地域創生専攻))	1	(少子化と子育てについて)	
専門	女性史*	女性史	女性史	2-3		
	ジェンダー論*	ジェンダー論*	ジェンダー論*	2-4		
	性教育*	性教育*	性教育*	2-4		
	社会学概論	社会学概論	社会学概論	1-2	家族問題(ジェンダー)/1 回	
	国際人権協力事業	国際人権協力事業	国際人権協力事業	2-3	女性の権利/1 回	
	共生社会論	共生社会論	共生社会論	2	男女間の共生	
	国際教育協力事業	国際教育協力事業	国際教育協力事業	2-3	開発と女性, 教育におけるジェンダー格差/1 回	
	社会参加実践論(複)*	社会参加実践論(複)*	社会参加実践論(複)*	1	家庭内暴力と女性の人権/2 回	
	子どもの生活環境論	子どもの生活環境論	子どもの生活環境論	1-2	男女共に自立した生活者の育成	
	アラブ・イスラムの文化・社会研究	アラブ・イスラムの文化・社会研究	アラブ・イスラムの文化・社会研究	2-3	ジェンダー関係(女性議員, 女性聖職者)/2 回	
	(家族・仲間集団・学校と学習・教育)	家族・仲間集団・学校と学習・教育	家族・仲間集団・学校と学習・教育	1-3	子どもを取り巻くジェンダー課題, 教育とジェンダーの今	
		教育の制度と社会 B	教育の制度と社会 B	2	男女平等の教育を取り巻く課題/2 回	
	家族福祉論	→隔年開講, 21年度閉				

	家庭教育論*	→講師交替・21年度以降開講未 定		
	(児童福祉論Ⅰ*)	(児童福祉論Ⅰ*)	1-2	(少子対策, ひとり親家庭の現 状, 子ども虐待・DV)
	(児童福祉論Ⅱ*)	(児童福祉論Ⅱ*)	1-2	(子育て支援)
	(社会福祉原論Ⅱ)	(社会福祉原論Ⅱ)	1-2	(児童・家族・女性福祉の現状)
	(幼児の教育課程と教育方法)	(幼児の教育課程と教育方法)	2-3	(地域との連携: 子育て支援)

備考 1. 網がけは分校間の連携科目（双方向遠隔授業）

・「現代ジェンダー論」は、札幌・岩見沢の2キャンパス、「キャリア開発の基礎」は全学配信である

2. (複) はオムニバス形式等で担当教員が複数の科目
3. *印は非常勤講師担当科目（または主に非常勤講師が担当する科目）
4. () はジェンダー関連科目に通じる可能性のある科目と内容
5. 演習科目は含んでいない

2) 次年度以降の課題

前述のように、平成21年度より旭川校では「性教育学」が開設された。平成22年度に向け、教員養成3キャンパス、すなわち旭川校と釧路校、札幌校を双方向遠隔システムでつなぐ方策を検討したが、200名近くになると予想される旭川校受講者を収容できる遠隔用教室はなく、実施を見送ることとした。

函館校ではすでに「性教育」は開設済みであるので、岩見沢、釧路、札幌の3キャンパスについては、引き続き今後の開設の可能性を探っていくこととする。現在のところ、どのキャンパスにも性教育を専門とする教員はおらず、函館校では非常勤講師に依頼し、旭川校では専任講師と非常勤講師によるオムニバス形式で開設している。平成22年5月に「教養教育見直しWG」が設置され、平成24年度からの教養教育カリキュラム改善に向けた作業が開始されているが、男女共同参画推進会議として、性教育（あるいはジェンダー）に関わる科目を教養教育の中に位置づけるよう要望していきたい。

ところで、ジェンダー関連科目ではないが、双方向遠隔システムを使用したある講義では、例年300名を超す受講者を抱え、担当講師の負担増のため平成22年度からの配信を取りやめる例がある。講師への負担増にとどまらず、遠隔システムによる大学の授業が、教育効果を十分発揮し得るかという点については問題が大きいと考える。でき得る限りは各キャンパスでの開設の道を探り、そのための必要な予算措置は講ずるべきであることを申し添えておく。

平成22年3月、「北海道教育大学における倫理・人権教育の在り方等に関する有識者会議」の報告書が出され、カリキュラムについては次の提言がおこなわれた。

「倫理観・人権，法令遵守の意識を高める科目を5キャンパス共通科目として設け，必修化する」

これを受け，平成23年度入学生向けに，教養科目の中の2単位必修科目として「倫理・人権」を開設する準備が始まった。ジェンダー関連として，男女共同参画社会のあり方，ジェンダーと差別，性暴力の実態と対策といった内容が盛り込まれることが検討されている。本カリキュラム作業部会の平成22年度～27年度の課題として，「各キャンパスにおけるジェンダー関連科目（教養科目）の開設」を掲げているが，このような形で達成されることとなったのは，本会議の活動の成果であろう。

「倫理・人権」に関しては，現在シラバスと実施要領の作成・検討がおこなわれているところである。次年度の報告書では，これらの詳細について報告する。また表II-1で示したように，各キャンパスでは多様なジェンダー関連科目が開設されているが，これらの中から数科目について，その講義内容，担当講師の声，受講者の様子などを紹介したい。

3. 育児・介護と仕事の両立について

本学教職員の育児休業取得者は、平成18年度4名、平成19年度6名、平成20年度5名、平成21年度は8名の取得があった（表Ⅲ-1）。平成20年度には男性の取得も1名あり、平成21年度は過去最大の取得者数であった。育児休業の取得については、今後、男性の育児休業取得の促進について検討が望まれる。

また、育児短時間勤務制度¹⁾利用者は、平成19年度、平成20年度ともに2名（すべて女性）、平成21年度はいなかった。また、平成20年4月より開始された育児時間制度²⁾利用者が4名、平成21年度3名（すべて女性）おり、これまでより支援体制は強化されたといえるが、今後活用の方策の検討も望まれる。

また、介護休業取得者は平成21年度初めて取得者があった。

表Ⅲ-1 育児・介護支援制度の利用

■ 育児休業取得者数

	平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度	
	男	女	男	女	男	女	男	女
事務系職員		4		3		2		7
大学教員					1	2		
附属学校教員				3				1
合計	0	4	0	6	1	4	0	8

注) 育児休業を開始した日の属する年度に計上

■ 育児短時間勤務制度利用者数

	平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度	
	男	女	男	女	男	女	男	女
事務系職員				2		2		
大学教員								
附属学校教員								
合計	0	0	0	2	0	2	0	0

注) 育児短時間勤務制度の利用を開始した日の属する年度に計上

■ 育児時間制度利用者数

	平成20年度		平成21年度	
	男	女	男	女
事務系職員		4		3
大学教員				
附属学校教員				
合計	0	4	0	3

注) 育児時間制度の利用を開始した日の属する年度に計上

■ 介護休業取得者数

	平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度	
	男	女	男	女	男	女	男	女
事務系職員								1
大学教員								
附属学校教員								
合計	0	0	0	0	0	0	0	1

注) 介護休業を開始した日の属する年度に計上

- 1) 小学校就学始期に達するまでの子を養育する職員が、子の養育のために1日の勤務時間を4時間又は5時間に短縮することができる制度。
- 2) 小学校就学始期に達するまでの子を養育する職員が、1日に2時間を超えない範囲内で勤務を行わずに、子の養育をするための時間を取得することができる制度。

4. 卒業後の進路と就職内容

学部学生および院生の卒業および修了後の進路（主に就職状況）について男女別に見ていく。用いる統計資料は、本学作成①「平成21年3月卒業者の就職状況」「平成22年3月卒業生の就職状況」、②「平成21年3月卒業者の就職者内訳」「平成22年3月卒業生の就職者内訳」である。

(1) 学部学生

表Ⅳ-1および表Ⅳ-2は、上記①に基づく学部学生の卒業後の就職状況である。平成22年3月卒業生について見ると、全体では1248人のうち男子557名、女子691名で女子の方が多い。これは本学の例年の特徴である。このうち就職者の割合は72.8%、未就職者が10.2%、進学者が11.5%、その他5.5%である。平成21年3月卒業生と比べると、就職者が5.6ポイント減少している。

次に課程別・男女別に傾向をみる。就職志望者の就職率は、これまで教員養成課程の方が教員養成以外（以下「以外」）より高い傾向が続いていたが、平成22年3月卒業ではほとんど差がなかった。しかし、臨時採用の場合は教員養成課程では39.6%、であり「以外」の16.5%に比べて極めて高い。男女別では、教員養成課程では就職率で差は少ないが、臨時採用の場合男子の方が4.5ポイント高い。このことは、女子の正採用が男子より多いということである。「以外」でも、臨時の就職率は女子の方が7.7ポイント低い。

以上のことから、教員養成課程では、就職希望者の就職数・率ともに女子が最も高く、さらに、雇用形態では、男子は臨時採用の割合が高い。「以外」についてみると、これまで女子の就職率が高かったが、平成22年3月卒業生は87.0%と全く同じであり、またこれまで女子の方が高かった臨時の就職率は男子の割合の方が高く、これまでと違う傾向がみられた。

また、大学院の進学率は全体で11.5%と前年度より3.8ポイントも上昇しているが、男子13.6%、女子9.7%と男女差は大きくなった。

表Ⅳ-1 平成21年3月卒業者の就職状況（学部）

平成21年5月1日現在

	卒業生数	卒業生全体の就職志望者数・率			就職志望者の就職者数・率				卒業生全体の就職率		卒業生全体の未就職者数・率		卒業生全体の進学者数・率		卒業生全体のその他者数・率	
		正規+臨時	臨時	正規+臨時	臨時	正規+臨時	臨時	正規+臨時	臨時	正規+臨時	臨時	正規+臨時	臨時			
教員養成課程	男	352	296	84.1	269	90.9	150	50.7	76.4	42.6	27	7.7	43	12.2	13	3.7
	女	420	381	90.7	354	92.9	140	36.7	84.3	33.3	27	6.4	22	5.2	17	4.0
	計	772	677	87.7	623	92.0	290	42.8	80.7	37.6	54	7.0	65	8.4	30	3.9
教員養成課程以外	男	211	189	89.6	157	83.1	43	22.8	74.4	20.4	32	15.2	14	6.6	8	3.8
	女	310	262	84.5	234	89.3	51	19.5	75.5	16.5	28	9.0	20	6.5	28	9.0
	計	521	451	86.6	391	86.7	94	20.8	75.0	18.0	60	11.5	34	6.5	36	6.9
男	563	485	86.1	426	87.8	193	39.8	75.7	34.3	59	10.5	57	10.1	21	3.7	
女	730	643	88.1	588	91.4	191	29.7	80.5	26.2	55	7.5	42	5.8	45	6.2	
合計	1,293	1,128	87.2	1014	89.9	384	34.0	78.4	29.7	114	8.8	99	7.7	66	5.1	